＜巻 頭 言＞

新 年 を 迎 え て

廣　瀬　利　雄*

明けましておめでとうございます。いよいよ2000年の元旦を迎えました。身の引き締まる思いです。「大ダム」168号で“会長に就任して”の挨拶を申し上げました。申し上げた事項は４つありました。反省し乍ら，顧みてみたいと思います。

(1) ダム技術者の自由討議の場を提供すること。

具体的な成果は未だしです。分科会の運営並びに国際分科会の活動を通じて，追い追い実現してゆく所存です。

(2) 各種分科会は目途を明確にして，運営されるべきである。

予定通り，４分科会が発足しました。委員長並びに委員の努力により，予想以上の成果を挙げつつあると，確信をしています。

(3) 技術委員会に国際分科会を新設した。

委員長並びに各国際委員の努力により，ICOLD 1999年年次例会で，早速予想以上の成果を挙げました。“聴いてくるだけ”の国際委員から“発言してくる”国際委員に変貌しているということを窺うことができました。

(4) 各種ダム関連，社団法人，財団法人の連係を図る支援を行うこと。

平成11年は各法人とも行事予定を決めていた等の理由から，成果を挙げることができませんでした。平成12年は努力する所存です。

---

* ㈳日本大ダム会議 会長

ところで，最近のダムを巡る世界の状況を見るに“ICOLDの使命と戦略特別委員会”報告，“世界ダム関係団体の動向”（WCD対応）に端的に表れているように，純技術面から次第に，人文，社会科学面に重心が移動しつつあるように思われます。日本の役割は，以前に比べて重くなっているように思われます。それは，ダム建設における水源地対策並びに建設工事と生態との関係を扱う応用生態工学の研究が，世界最先端であるからです。また，RCD，CSG工法を始めとする技術開発等，世界に向けて発信できる項目は沢山あります。2000年，第20回大会が北京において開催されます。多くの人が，多くの発信をかかえて，参加し，世界に向かって発信していただくことを心から切望しております。

なお，日本大ダム会議では，この1月からインターネットのホームページを開くこととしています。このインターネット・ホームページを通じ，わが国の優れた技術や制度を海外に発信すると共に，会員の皆様のお役に立ちたいと考えている次第です。

会員の皆様にとり，今年がより良い年であることを念願いたしております。